

# NEW WAVE

ニューウェーブ

53号  
2020.3  
発行

特集

三浦学苑高等学校・県立保健福祉大学の女子学生への市民サポーターによるインタビュー

トピックス

男女共同参画セミナー「パパと子どものクッキング」レポート

塚山公園の桜

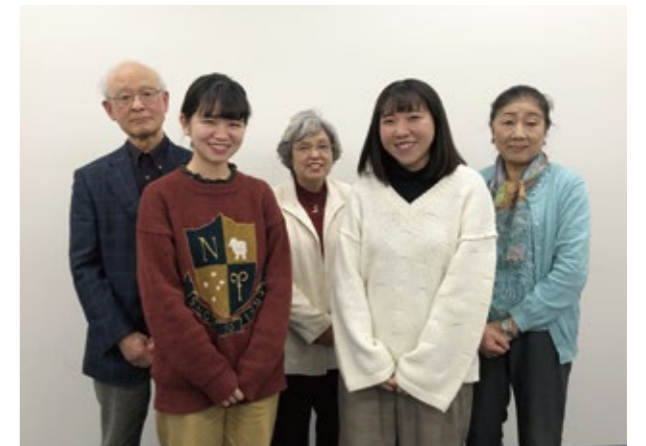
## ～男女共同参画社会への羽ばたき～

### 今の女子高校生・大学生たちが思い描くライフスタイルとは

今回は、三浦学苑高等学校と県立保健福祉大学の女子学生取材して、これからの社会を担う若い世代の女性たちの、男女共同参画への思いなどをお聞きしました。



三浦学苑高等学校の佐藤あおいさん（前列左）、望月彩弥愛さん（前列右）と市民サポーター（関、原田、太田、伊東）



県立保健福祉大学の原口莉子さん（前列左）、政村有香さん（前列右）と市民サポーター（関、太田、伊東）

#### Q 「男らしさ、女らしさ」について

- 「男らしさ・女らしさ」とは何なのかが分かりません。そんな考え方に束縛されずに自分らしさを追求すべきだと思います。
- 「男らしさ・女らしさ」という枠組みは取り払われるべきだと思います。周りの目を気にして、自分らしく生きることができず生きにくさを感じている人もいます。

#### Q 「男は外で仕事、女は家庭を守る」という考え方について

- 古い考え方だと思います。今は女性も男性も、それぞれが自分を活かした働き方ができる時代になっています。
- 男性が主夫をやって女性が働くという形を含めて、多様な家族の形や生活様式が許容されるべきだと思います。

## 男女共同参画セミナー 「パパと子どものクッキング」

1月25日(土) 大津コミュニティセンター調理室

料理を通して男性の家事参画を広める、日本で唯一のパパ料理研究家である滝村雅晴さんを講師にお招きし、簡単でおいしいメニューに親子でチャレンジ!今回のメニューは、ツナ炒飯、鶏だしチキンスープ、クレープでした。自分軸の男の趣味料理ではなく、家族のための思いやり料理を作りました。当日はトモシヨクProjectの一環として、ご参加のお父さんにトモシヨク宣言をしていただきました。

### セミナー参加者の感想



トモシヨクProjectとは

働きながら父親や、共働き家族が、家族や友人と食事を共にする時間が作れる働き方・生き方を推進する、父親支援のNPO法人ファザリング・ジャパンの新プロジェクトです。

子どもと一緒に何かをするきっかけになるので、このような機会があるのは嬉しいです。楽しく、とても有意義でした。

家事は家族全員で協力しています。妻とは特にルール決めはしていませんが、あらためてお互い感謝の言葉を常に言うようにしようと思いました。

平日は家族と顔を合わせるのもままならないが、最近では月に2.3回程度リモートワークができるようになったので、今後さらにワーク・ライフ・バランスを改善し、家族との時間を増やしたいと思います。



## 男女共同参画・多様な性を尊重する社会の推進施設 「デュオよこすか」

### デュオルーム

交流の場、情報収集の場としてご利用ください。

★ミーティングスペース ★関係資料の閲覧 ★図書の貸し出し

- 電話 046-822-0804
- 開館時間 9時～18時
- 休館日 年末年始、臨時休館日



### 女性のための相談室

女性が日頃から抱える悩みに女性相談員が応えます。

電話 046-828-8177

- 一般相談…月・水・金曜日 9時～16時（面談は要予約）
- 法律相談…原則第3火曜日（予約制・女性弁護士が対応）

横須賀市立  
総合福祉会館5階  
〒238-0041  
横須賀市本町2-1

発行・問合せ/横須賀市 市民部 人権・男女共同参画課 〒238-8550 横須賀市小川町11 電話046-822-8228

mail:we-pc@city.yokosuka.kanagawa.jp HP:http://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/2420/gender/index.html

◎この広報紙は12,000部発行し、1部あたりの印刷経費は9.79円です。

◎この広報紙は、印刷用の紙へリサイクルできます。

リサイクル適性(A)

## Q 家庭内での家事分担は？

- 母はフルタイム勤務ですが家事全般を担い、時には私が夕食の支度をすることもあります。
- パート勤務の母が全ての家事を担っています。
- 専業主婦の母が全ての家事を担っています。
- 父が洗濯を専任していますが、残る家事はパート勤務の母が担っています。

## Q 将来のライフスタイルについて

《どんな仕事をしたいですか？》

- 人の役に立ち、子どものために家でもできる仕事。例えば、セキュリティエンジニアの資格を取りたいです。既に、今春進学する大学にAO入試で合格しています。
- 安定した収入と充実した福利厚生がある職場で、自分の仕事の成果が目に見える仕事です。今年、就活しますが具体的職種についてはまだ決まっています。
- 観光業でツアープランナーをやりたいです。生徒会活動の台湾研修で海外を見て、自分の知らない世界に魅せられたので、たくさんの方に海外経験をしてもらいたいと思ったからです。すでに、今春進学する大学は決まっています。

《結婚、出産後も働き続けますか？》

- 仕事が楽しければ続けたいです。幼いころ、保育園ではなく幼稚園に通い、いつも母と一緒にいてくれたことが私にとってすごく大きかったと感じています。私



県立保健福祉大学でのインタビューの様子

も、子どもが小さい間は仕事はしないか、家でできる仕事をしたいなと思っています。

- 今は結婚して子育てをしたいという思いが強いので、専業主婦になりたいと思っていますが、仕事が楽しく生きがいになっていければ続けたいです。
- 今は、好きな人と結婚したいと思っています。私の母は、私が中学校3年生まで専業主婦で、家に帰った時に鍵が開いて、「ただいま」と言ったら「おかえり」と返してくれました。家にいてくれる母親の存在はすごく大きいと感じたので、できるだけ子どもが生まれたら家にいたいなと思っています。
- 結婚したいという思いがあまり強くないので、生涯独身も大いにあり得えます。結婚、出産したとしても働き続け、何かあったときに、自分の経済力で生きていけるようにしたいと思います。

## Q 女性に生まれてよかったですか？

- 女性に生まれてよかったです。大好きな人との間に子どもを授かることができるからです。
- 男性に生まれたかったと思っています。男女平等とだけ言われていても、職場では男性の方が権力を持ち、家庭では女性は養われているように見えます。女性は誰かに守られながらしか生きられない弱い立場であることが窮屈に感じます。
- 男でも女でもよかったです。性別は関係なく、今あるような私に生まれて良かったと思っています。
- 女性に生まれてよかったです。私は子どもが好きで子育てをすることが目標でもあるため、子どもを産むことができる体だということも理由です。また、かわいいものやキラキラしたもの、女同士のたわいのないおしゃべりが好きだからです。

## Q 「男女共同参画」について

- 実現すべきことだと思いますが、難しい点もあると思います。例えば職場において女性が昇進しづらい理由に、出産や育児のために休まざるを得ないことがあると聞いています。体のことを考えると、すべてにおいて男女平等は困難かもしれませんが、同等の権利を得られたらいいと思います。

- あくまで理想としか思えません。女性には妊娠などがあって男性より働ける時間が短いなど、完全な男女平等については超えられない壁がありそうだなというのが正直な気持ちです。海外では男女平等ができていると言われても、人によってそれぞれ感じ方は違うと思うので、全員が納得する男女平等は理想なのかなと思います。
- 理想論だと思います。私は、何をもちて男女平等ということの何が分かりません。女性専用車両が男女平等なのかと言ったら、賛否両論があります。そのように人によって考え方の違いがある上で、完全な男女平等を目指しますというのは無理かなと思っています。
- 男女が同じように社会で役割を持って活躍できて、家庭でも役割を分担して、男女がお互い支え合って暮らすことができるのはよいことだと思います。一方で、私のように専業主婦になりたいと思う女性も一定数いると考えていますので、そのような人たちに、男女共同参画のために「女性も働いてください。」「夫婦協力して家事をこなしてください。」というのは違うなと思います。専業主婦の人、独身の人、共働きで家

事も分担する人、それぞれが欲する暮らしができることが理想だと思います。

- 男女雇用機会均等法という法律がありながら女性が管理職になりにくいという現実があると思います。今日、いろいろお話し合いをしたことで、今の社会を動かしている世代に任せきりするのではなく、これからは私たち若い世代が声を出していかなければ社会は変わっていかないのだということに気付かされて良かったです。



三浦学苑高等学校でのインタビューの様子

## 編集後記

### 男女共同参画市民サポーターがテーマの検討からインタビュー及び記事作成を行いました。

横須賀市で20年余り続いた男女共同参画市民サポーター制度が本年度限りで終了される由、本53号は7年前から始まった広報紙NEW WAVEの市民サポーター編集委員によるインタビュー記事の最終版となります。

それゆえ今回は、明日の日本社会の主演を担う世代の女子高校生と女子大学生たちに自らのライフスタイルを見通してもらいました。その結果、彼女らの世代では「男らしさ・女らしさ」はもはや死語と化すも、将来は子どもを産んで自らの手で子育てしたいという強い意志がしっかりと根付いており、子ども中心の温かい家庭生活と自己表現できる仕事の両立を期するという堅実な生き方が主流であることに感銘を受けました。加えて、上手に環境整備すれば懸念される少子社会の改善への光明も見えて安堵しました。このように、本最終号が有終の美を飾るにふさわしい希望香る記事に仕上がった幸運に感謝しています。

思えば、ほぼ20年に及び市民サポーターの末席をけがし、ここ7年間の編集委員を皆勤した私としては感無量の思いを禁じ得ません。

そして、編集委員一同、これまでにご縁のあった読者を含めた関係者の皆様様に心より感謝とお礼を申し上げつつ筆を置きます。

(編集委員代表 関 昌夫)

これまで記事作成に関わっていただいた市民サポーター編集委員の皆様、ご協力ありがとうございました。



男女という枠組みを取り払い、また将来はさまざまなライフスタイルで、自分らしく幸せな生活を送りたいという率直な思いを感じるインタビューでした。男女共同参画についてはまだまだ理想だという声もあり、今後さらに若い世代に働きかけて、男女共同参画を推進する必要があると感じました。

(人権・男女共同参画課)